

2023～	修士論文研究計画法概論	単位数	履修方法	配当学年
		1単位	SR	1・2年
		担当教員	三浦 剛	

■授業のテーマ

社会福祉学研究の基礎を学び、修士論文作成を通して研究方法の修得、および根拠ある社会福祉実践をおこなう技術を身につける。

■授業の目的

学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、社会福祉研究をおこなう者として必要な知識、技術を理解し、修得する。また、実践者として根拠ある実践について理解し、実践につなげていくことができるようになる。

■授業の到達目標

- ・社会福祉研究の意義を説明できる。
- ・受講者自らの社会福祉研究の視点、視座を述べることができる。
- ・受講者自らの社会福祉研究のデザイン（研究計画）を作成することができる。
- ・量的研究、質的研究の基本的な方法を説明できる。

■授業の概要

社会福祉研究の意義について、受講生の研究、実践経験などを踏まえながら検討する。その上で受講生の大学院での学びの目的（問題意識）を整理してもらう。

次いで先行研究のレビュー法も含めた文献研究、量的研究、質的研究の方法を講義する。このとき、自らの問題意識を研究するには、どのような方法が適当かを考えられるようになってもらう。ここでは社会福祉実践者として求められている「根拠の示せる実践」のための科学的方法についても視野に入れる。

最後に修士論文作成に向けた研究デザインを作成し、授業内での報告、検討をおこなう。その結果に基づき、各自が学位請求論文研究計画書を作成する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	在宅学修15のポイントの「1～14」までを行い、それぞれについてまとめたものを提出することおよびポイント「15」にある「研究計画」を作成してください（メール添付で提出してください）。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面（双方向）授業1週間前まで <input checked="" type="checkbox"/> 対面（双方向）授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 （ ）
課題 2 (事後課題)	「学位請求論文研究計画書」の提出。A4判用紙2～3枚（1頁1行40字×30行）でまとめること。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面（双方向）授業後1ヶ月以内 <input type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 （ ）

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



スクーリングまでの短期間に事前課題を行うのでたいへんかと思いますが、まず、この科目を理解することによって、これ以降の学修達成度に大きな違いが出ます。

また、修士論文作成を早い時期から意識することによって、修士2年間に有効に使うことができます。



9回目、10回目の対面授業での検討結果をしっかりと踏まえてください。課題1との比較も行うこと。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	自らの入学の目的を整理する	これまでの社会福祉研究(卒論、実習なども含む)、実践経験をふりかえる	「志望理由書」などを、再度確認する
2	問題意識を整理する ①経験から	これまでの社会福祉実践経験などをふりかえり、問題意識を持つに至った経緯を考える	これまで作成した論文や実習報告書などを再度読み返し、検討する
3	問題意識を整理する ②先行研究から	自分の問題意識と関連する論文、著書を読み該当分野の研究の動向を知る	図書館、情報検索システムなどを使い論文を収集する
4	問題意識を整理する ③先行研究から	引き続き自分の問題意識と関連する論文、著書を読み、問題意識を明確化する	収集した先行研究を整理して自分の問題意識を位置づける
5	研究の目的について学ぶ	研究目的とは何かについて文献で調べ、理解する	参考書などを読み、研究における目的について学修する
6	研究の目的を考える	自分の研究目的を作成する	自分の研究、実践経験と先行研究の調査から、現時点での研究の目的を作成してみる
7	文献研究の方法を学ぶ	文献研究の方法について調べ理解する	文献研究の方法を参考書から学修する
8	量的研究の方法を学ぶ①	量的研究の枠組み(独立、従属変数関係など)、検定、推定の意味などについて学ぶ	量的研究の適用範囲と方法の概略をまとめてみる 統計的方法の基礎的な参考文献を用いて学修する
9	量的研究の方法を学ぶ②	量的研究の具体的方法(アンケート調査など)について学ぶ	参考文献から、アンケート調査法に関する基礎的な学修をする
10	量的研究の方法を学ぶ③	アンケートなどで得られたデータの分析方法とまとめ方について学ぶ	統計ソフトウェアなどを用いたデータ分析について、参考書の例題などを用いて理解する
11	質的研究の方法を学ぶ①	質的研究の意味と概要について調べ、理解する	質的研究の適用範囲と方法の概略についてまとめてみる
12	質的研究の方法を学ぶ②	質的研究(主にインタビューなどによる質的調査法)の方法を理解する	インタビューなどの方法と、グラウンデッドセオリーなど、質的データの分析方法を、参考書から理解する
13	研究デザインを考える①	この時点での自分の研究の目的と方法(1つの方法ではなく組み合わせも含めて)の妥当性を確認する	明らかにしたいこと(目的)をこれまで学んだ方法で明らかにできるか、枠組みを図示するなどして検討する
14	研究デザインを考える②	研究デザイン、計画を理解する	テーマ設定の背景(理由)、研究の目的、研究の方法で構成される研究デザインを作成する
15	学位請求論文研究計画書を作成する	学位請求論文研究計画書案	研究計画を作成し、添削指導を受ける

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安:16時間以上)

在宅学修15のポイント1から14までを、事前課題として行い、それぞれについてまとめたもの、15にある「研究計画」を作成しスクーリング初日の前日までにメールで提出してください(レポート課題の「課題1」に相当)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉的事象の研究課題について概観し、講義する	オンデマンド
2	社会福祉研究、実践研究の現状について、その傾向などを講義する	オンデマンド
3	研究の枠組み（デザイン）について講義する	オンデマンド
4	研究の方法について① その概略を講義する	オンデマンド
5	研究の方法について② 先行研究のレビュー方法を教示し、受講生に事前学修した自らの関心分野での先行研究調査の枠組みを作らせる	オンデマンド
6	研究の方法について③ 質的研究（事例研究を含む）方法について、データの分析方法も含め教示し、受講生に事前課題に基づき自らの関心分野への適合を検討させる	オンデマンド
7	研究の方法について④ 量的研究（実証研究）法について、アンケート調査の方法などを教示し、受講生は調査票の作成、実験計画などの基礎を学び、量的研究方法の概要を習得させる	オンデマンド
8	研究の方法について⑤ 質的研究（事例研究を含む）方法について、データの分析方法も含め教示し、受講生に事前課題に基づき自らの関心分野でのデータ分析のデザインを作らせる。また量的研究（実証研究）におけるデータの分析方法についても教示し、検定など実証の意味、推定や多変量解析などによるデータの解釈について、事前学修による自らの関心分野でのデータ分析のデザインを作らせる	オンデマンド
9	8回目の授業で作成した分析のデザインを報告し、検討する	同時双方向
10	受講生は「学位請求論文研究計画書」を作成し、発表、検討する	同時双方向

(3) スクーリング事後課題（学修時間目安：50時間）

- ・「学位請求論文研究計画書」を完成させる（レポート課題の「課題2」に相当）。

■評価の方法・基準

- ・課題2レポート（40%）
- ・スクーリング（参加度とプレゼンテーション60%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 岩田正美他編『社会福祉研究法』有斐閣、2006年
- 2) 鈴木淳子著『質問紙デザインの技法（第2版）』ナカニシヤ出版、2016年
- 3) 波平恵美子、道信良子著『質的研究 Step by Step 第2版』医学書院、2016年
- 4) ウヴェ・フリック著山田博志監訳『新版質的研究入門』春秋社、2011年
- 5) 笠原他編、斉藤他著『地域の実践を変える社会福祉調査入門』春秋社、2013年
- 6) (大学生向きですが)『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』『アカデミック・スキルズ 資料検索入門』『アカデミック・スキルズ 実地調査入門』(すべて慶應義塾大学出版会)なども参考になります。